

おかえ 丘江遺跡 現地説明会資料



丘江遺跡の調査地点

日時：平成29年10月21日（土） 場所：柏崎市田塚三丁目 丘江遺跡発掘調査事務所

主催：国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所

新潟県教育庁文化行政課 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

1 調査の概要

おかえ 丘江遺跡は、さばいしがわ 鯖石川左岸の標高6m～7mのせんじょうち 扇状地に立地します。国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、長さ約700mに渡って、遺跡が広がっていることが確認され、平成26年度から発掘調査を進めてきました。これまでに3回の調査が行われ、約400m以上の範囲に13世紀～15世紀を中心としたほったてばしらたもの 掘立柱建物、土坑、たてあなじょうどこう 竪穴状土坑、いど みぞ みち すいでん 井戸、溝、道、ピット、水田などが確認され、中世のはじきもの 土師器や陶磁器、せんか せきぞうぶつ 漆器、しつき 舌長 しゃながあぶみ 鏡などが発見



柏崎バイパスと遺跡の範囲

されています。

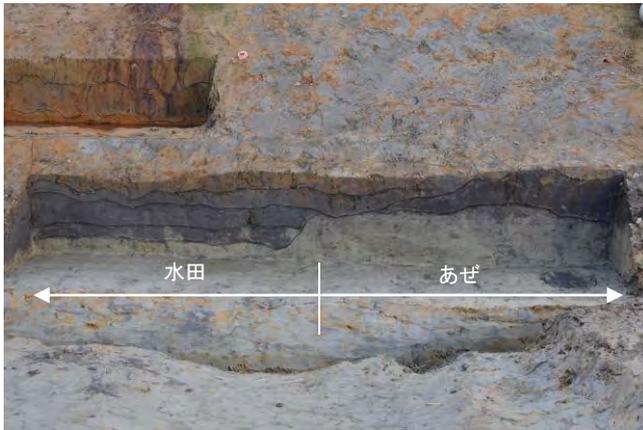
平成 29 年度は平面積で 4,450 m²の範囲を対象に上層・中層・下層の調査を行っています。現在の地表面の高さ（標高約 7.5m～7m）から約 1 m 下に上層（標高約 6 m）、さらに約 30cm～50cm 下に中層（標高約 5.7m～5.5 m）、その下の約 20cm～30cm に下層（標高約 5.5m～5.3m）があります。現在は上層と中層の発掘調査を終了し、下層の調査を実施しています。上層は中世末～近世初頭、中層は中世、下層は弥生時代後期・古代・中世と考えられます。

上層・中層・下層では水田とそれに関係する水路が共通して見つかっています。これまでの調査で確認されている居住地に対して、当調査地点は食料を生産する場所として位置づけられ、本遺跡で暮らしていた人々が見た景観を考えるうえで重要です。その他、弥生時代後期の河川が初めて見つかりました。下層は現在調査中ですが、この発見は新たな地域の歴史を紐解くものです。

2 下層の概要

下層の調査では、弥生時代後期の土器や古代の須恵器が出土する河川、古代～中世以降の水田やあぜ、土坑や溝、柱穴などを検出しています。遺構の大半は古代～中世以降の水田や溝です。水田は「あぜ」によって区画されています。地層断面の観察や遺物の出土状況などから、弥生時代後期の生活跡が後の水田耕作で攪拌されていると考えられます。耕作の影響を受けていない部分、例えば「あぜ」では良好な状態の弥生時代の土器が出土しています。

発見された水田は河川の上面にも広がっており、上層や中層に比べると小さい区画、幅の広い「あぜ」が特徴的です。弥生時代の土器のほかに、管玉、玉類の未製品、中世の土師器、珠洲焼などが出土しています。



水田とあぜの断面



あぜの弥生時代の土器



河川の堆積の様子

3 下層の河川

河川はおおよそ弥生時代後期、古代、古代～中世の段階を経ていることが、堆積していた土の断面観察と出土遺物でわかりました。

河川の底近くからは弥生時代後期を中心とした土器が多数出土しています。現在のところ、これより古い時期の遺物が出土していません。検出した河川の周囲で本格的に人々が暮らしを始めたのは、この時期と考えられます。

さらに、この層の上には古代の須恵器を含む層が堆積しています。この層からは遺物のほかに、丸太材が出土しており、人工的な面には「X」の印が付いていました。

その後、河川には腐った植物質の層が堆積しており、水量が少なく、湿地のような環境にあったと想定できます。腐植土層の

一部は水田耕作による攪拌を受けており、中世には水が流れる河川ではなかったようです。



河川の底から出土した弥生時代の土器



「X」印のある古代の原木



水路の断面

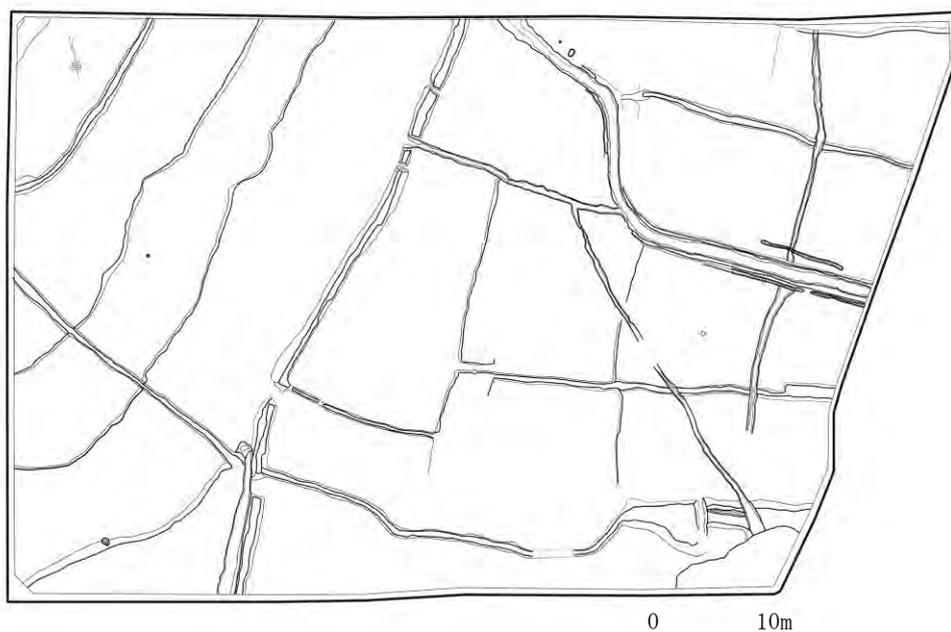


あぜと水田

4 中層の概要

中層は水田とクランク状に曲がった水路、溝、ピットが見つかっています。下層で見つかっている河川は中世の頃にはすでに埋まっており、その河川跡を利用して、段差のある水田が作られています。水路に沿って「あぜ」も作られています。「あぜ」を壊すような溝もあることから、水田を作り直している可能性があります。出土した遺物は多くはありませんが、中世の土師器が出土していることから中世前期以降と思われます。

水路内や中層を覆っていた土壌には砂を含む層が堆積していることから、洪水を受けた可能性が考えられます。



中層遺構全体図

5 上層の概要

上層は遺構の重なりから2つの時期が認められます。水田が作られる前には建物がありました。

上層の水田の下に掘立柱建物、竪穴建物、井戸、土坑が整った配置で見つっています。竪穴建物の内部に溜まった土には植物繊維を多く含む層を確認しています。建物の大きさや底面の傾斜、堆積していた土の状況などから、馬などの家畜小屋の可能性も考えられます。土坑からは青磁、井戸からは石造物の破片が出土しています。

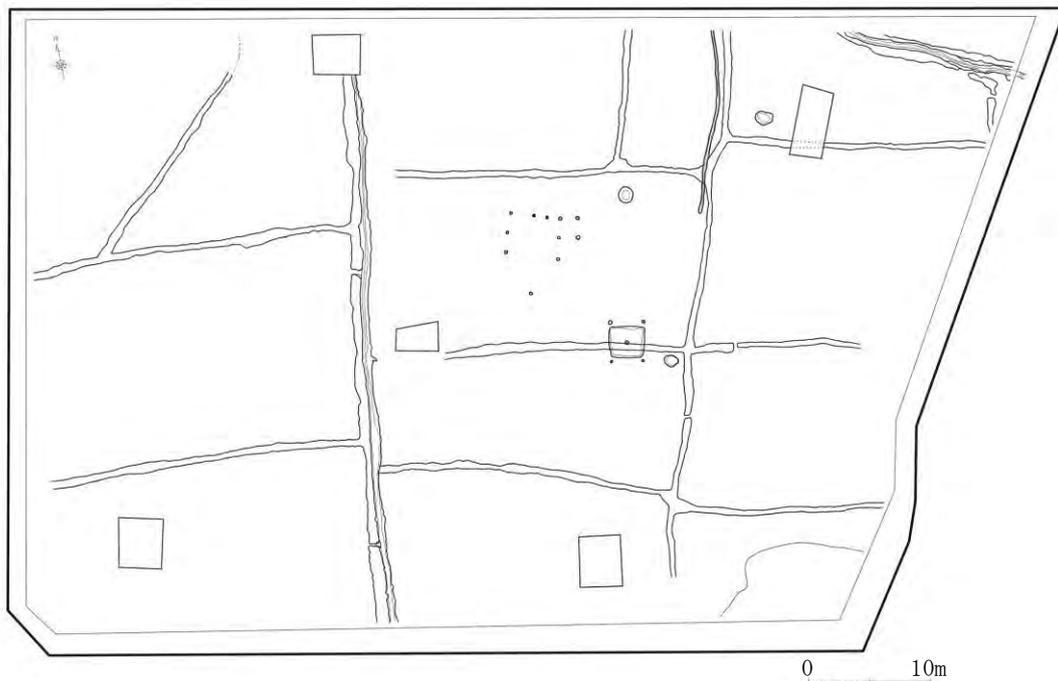
水田区画は東西に長く、南北に短く、下層や中層よりも大きく作られています。南北方向の水路は直線的ですが、水田耕作土中からは、青磁、珠洲、肥前陶磁、砥石、銭貨、煙管、小柄などが出土しており、中世末～近世初頭以降と考えられます。この頃の柏崎では藤井堰の建設や改修、西江などの用水路の整備、新田開発が行われていました。柏崎の水田開発のあゆみを知ることができます。



竪穴建物と水田のあぜ



堆積状況



上層遺構全体図